

第4回加茂市エリアプラットフォーム準備協議会 議事要旨

1 日時：2024年3月13日（水）午後2時から4時

2 場所：加茂市役所3階 301・302会議室

3 出席者（敬称略）

委員：木戸委員代理 堀内 大祐（加茂商工会議所まちづくり委員会）
田邊 良夫（加茂市商店街協同組合 理事長）
萩野 正和（株式会社 connel 代表取締役）
松井 大輔（新潟工学部工学科 准教授）
加藤 はと子（全国「道の駅」女性駅長会 会長）
高澤 浩（第四北越銀行 加茂支店 支店長）
杵鞭 久（加茂信用金庫 理事長）
小林 一隆（NST新潟総合テレビ 情報制作本部 デジタルマーケティング部 部長）
市川 恭嗣（加茂市 CSO）
渋谷 美浩（新潟県三条地域振興局 局長）
西村 太佑（加茂青年会議所 理事長）
横山委員代理 落合 純（新潟経営大学 地域活性化研究所 副所長）
若月 守（NTT東日本 新潟支店 副支店長）

藤田 明美（加茂市 市長）

事務局：政策推進室、(株)オリエンタルコンサルタンツ

4 議事

（1）開会

（2）資料等の説明

1）エリアの目指すビジョンの検討とその実現に向けて

事務局から「資料5 令和5年度の検討のまとめ」及び「資料6」「資料7」の説明があった。

2）質疑応答及び意見交換

【委員】当分の間、エリアプラットフォームの事務局は加茂市が担うことになり、まちづくり会社等が組成された際には、事務局が移行することになるのか。事務局が移行する場合、規約「第8条（1）第3条第1項第1号に定める活動に要する経費等：事務局負担とする」に従って、まちづくり会社が事務局として経費を負担することになると思うが、まちづくり会社の資金源等の考えを伺いたい。

【事務局】民間のまちづくり会社が発足し、それが事務局を担うことでより未来ビジョンの実現に向けて取組・事業が推進されると見込まれた場合には、まちづくり会社が事務局を担うことを想定する。しかし、現時点で具体的に想定する団体・組織があるわけではないため、規約の記載内容は、あくまでも加茂市が事務局を務める限りでの内容と理解していただきたい。加茂市ではなく、民間の事業者や公益団体が事務局を担う際の取り決めは、改めて検討することになる。

【委員】規約は、事務局を加茂市が務める上での暫定的なものであると認識した。今後、状況に応じて規約が更新されていくことと思うが、規約（案）には、更新に関する記述がない。規約の変更に関する考えを伺いたい。

【事務局】規約の変更に関する記述がない理由としては、エリアプラットフォームが他の組織体と性質が異なるため、どのように定義すべきか苦慮しているためである。規約を変更する場合には、どの会議体に諮るか等を記載することになると思う。会議体としては、全体会が考えられるが、皆様が集まらない場合には、電子書面による協議で諮る方法も考えられる。規約への記載方法は、皆様からご意見を伺いたい。

【委員】エリアプラットフォームの取組みは、近年全国的に活発化しはじめたものであり、規約を公表している団体も数少ないため、決まった規約の形はない。一般的な組織としての規約は当然あるが、加茂市のエリアプラットフォームの場合は、資料5、P.8にも記載されている通り「情報・課題・方針の共有の場」であり、組織ではない。組織ではない場合の決裁の取り方は、方法が多様であり、会員数や、会員のエリアプラットフォームへの関わり方によって方法を見定めていく必要がある。

【委員】本規約は、今後対外的に公表する想定であるか。

【事務局】HP等で公表する想定である。

【委員】P.9～10の次年度のスケジュール（案）について、検討事項のボリュームが非常に多いと感じた。その中で、第1回全体会後に市民意見の募集と反映とある

が、広く意見を集めて未来ビジョンに反映することは、非常に大変なのではないか。現時点での想定があれば伺いたい。

【事務局】資料5には「市民意見の募集と反映」と表現をしているが、この想定としては、これまで皆様と検討してきた未来ビジョンについて、まずは発信し、認知してもらい、共感していただくきっかけづくりを行うことと考えている。そのため、一般的なパブリックコメントのように意見を募集し、その意見一つ一つへの回答を公表したり、未来ビジョンへの反映を検討したりするような想定ではない。

【委員】未来ビジョンに関する市民意見の募集の方法は、シンポジウムの中で意見募集を行う想定か。もしくは、シンポジウムとは別にパブリックコメントのようなことを実施する想定か。

【事務局】事務局としては、シンポジウム形式で市民意見を募集する想定であり、併せて、シンポジウムに来られなかった方の意見も募集できるように、HPに掲載の上、パブリックコメントの形式での意見収集も行いたいと考えている。

【委員】シンポジウムの実施方法の想定を伺いたい。

【事務局】シンポジウムは、セッション型でその場での対話も含めて実施したい。また、アンケート形式による意見収集も行う想定である。

【委員】シンポジウムはどの程度の規模で実施する想定であるか。また、広報をする際に市外の方の参加もあると思うが、市外の方へのPR方法等も想定するものがあるか。

【事務局】新潟市で実施したシンポジウムのイメージを共有していただきたい。

【委員】新潟市では、未来ビジョン策定した段階でその発表も兼ねてシンポジウムを実施した。シンポジウムは2部構成で実施し、第1部は若い人(学生や20~30代)を対象に声掛けして、ワークショップ形式で実施した。ワークショップは、「エリアごとに実施したいこと」や、「こんな取組み・活動があったらいい」といったことをテーマとして実施した。第2部では、その意見をもって、ワークショップの各班の代表者でパネルディスカッションを行った。その他にも、専門家の基調講演や市職員、国土交通省の職員によるトークセッションも実施した。参加者数は、200~300人程度であった。

【事務局】シンポジウムは、委員から説明があったような内容も踏まえて、今後のWGで提案し、皆様からご意見いただきたい。また、シンポジウムには、市外の方や外

部のプレイヤーを招くことも考えられる。事務局では、新潟市のエリアプラットフォームの取組に勉強に伺ったりもしており、その場でPRさせていただくこと等も考えられる。そのあたりの可能性も今後探っていきたい。

【委員】加茂市では、過去2年間、商工会議所を主催にまちづくりフォーラムが開催されている。来年度のまちづくり委員会の活動計画の中で、例えばエリアプラットフォームとの共同事業のような形式でシンポジウムを開催できると、市内で幅広く発信ができると考える。スケジュール的に難しい場合は無理にとは言わないが、是非検討してみたい。

【委員】限られたスケジュールの中での難しさはあるが、是非検討できたらと思う。

【委員】未来ビジョンに関して、「市民意見の募集と反映」と記載していることから、少し誤解もあるが、実際は広報活動であると認識する。PR方法については、内部へのPRと外部へのPRの方法を分けて検討すべきと考える。外部に関しては、シンポジウムの場を設けて、メディアの方を招待し、報道していただくことや、国土交通省のサイト等で発信していただくこと等が効果的であると考える。一方で、内部へのPRに関しては、シンポジウムだけで発信するのは乱暴であると感じる。例えば、三条市では、三条マルシェというキーとなるイベントが定期的で開催されており、その中で他の催し事等があれば、共同開催でPR活動を実施している。定期的な実施されるイベント等をうまく活用して、そこに来る人に対してPRしていくなど、小さいことをコツコツ行っていく方が、市民により浸透していくと考えるため、是非検討していただきたい。

【委員】加茂市はイベントが多いため、是非主催者側に協力していただきながら周知できると良い。

【委員】既存のイベントに絡められると事務局の負担も減ると考える。

【委員】広報を考える際に、実際にプレイヤーとなり得る方や地域で活動されている団体等を招待して講演していただけると、加茂市をPRすることにもなり、聞き手も内容を理解しやすいものとする。

【委員】加茂市の場合は、教育や福祉など様々な分野についての議論が必要であり、狭義の意味ではなく、広義の意味でのまちづくり活動の検討が必要になる。新潟市では、企業誘致や経済面の検討に力をいれてエリアプラットフォームの活動が進められており、その中でテーマに即したプレイヤーを招待して講演をしていただいている。また、PR方法については、コロナ禍を受けて全国的にセミナーの内容

も充実している。例えば、東京で開催されるセミナーに参加して、加茂市の内容を発信することや、新潟市等で発信することなど、対外の PR も同時に進めていくことも重要と考える。

【委員】 資料 5、P. 10 の令和 7 年 3 月頃に「令和 8 年度上半期で実施する取組の準備」と記載されているが、正しくは「令和 7 年度上半期」ではないか。また、令和 7 年度の取組について、例えば 1 年間程度は社会実験等を実施し、まちづくり会社のあり方を検討することが必要と考える。実験的な取組みをすると、弱点や課題が浮き彫りとなり、そこを改善しながら、まちづくり会社としてのあり方を見定めていくことができる。また、未来ビジョンのキャッチフレーズで「まちまるごと、みちのえき」という素晴らしいフレーズを設定しているため、これらをもとに社会実験を開催した際の反響も検証できると良い。例えば、田上町まちの「たがみバンブー」は、当初赤字収支の予測であったが、2 万 5 千人もの来場者を集めた。近隣にはそのようなノウハウを持たれた方もおり、そのような方も招待しながら、キャッチフレーズに即した良い活動ができると良い。

【事務局】 スケジュール（案）について、委員のご指摘のとおり、正しくは「令和 7 年度上半期で実施する取組の準備」である。

【委員】 エリアプラットフォームが設立した際に、構成員として参画するメリットはあるのか。そこが不明確であると同じメンバーで検討が進められるだけになると感じる。

【事務局】 エリアプラットフォームの組成には第 1 ステップと第 2 ステップがあると考え。第 1 ステップの中では、新たに構成員を増やしていく想定はしていないため、第 2 ステップ以降のフェーズについて説明する。未来ビジョンの検討については、当然絵を描くことが目的ではなく、まちづくりの中での事業・取組に結び付けていくことが重要と考える。事業を創出する段階においては、ビジネスチャンスがあることを未来ビジョンに位置付けることにより、多様な方が参加する意義になると考える。その点は、来年度の活動の中でご意見いただきたい。

【委員】 ワーキンググループやプレイヤー、企画グループといった組織名称ができていますが、それぞれ同義であるか。

【事務局】 今年度実施してきた準備協議会を全体会と据えて、ワーキンググループは、2 月 20 日にも開催したが、実務メンバーをもとに物事を検討する場と定義している。資料 5、P. 8 に、新たに企画グループの名称を記載しているが、これは例えば、イベントを開催する際の実行委員会と想定していただけると良い。

【委員】企画グループのような組織が増えていくことが、非常に重要と考える。例えば、何か実施したいが資金が足りないとか、参画したいが敷居が高いとか、そのような悩みを抱える団体も複数あるため、エリアプラットフォームの活動の中で、実行組織の意向を調査しながら、活動の方向性を検討できると良い。

【委員】各会に参加をする中で、エリアプラットフォームは、未来ビジョンを策定するための組織体であることを理解した。また、未来ビジョンの策定に向けては、広報活動が非常に重要であると感じた。未来ビジョンでは、キャッチーなフレーズもでてきたが、それぞれの意味合いを初見で理解してもらうのは、非常に難しいと考える。そのため、シンポジウムの前段階から広報活動を行うなど、少しずつ市民にすり込んでいくことが重要と考える。

【委員】来年度のスケジュールの中で、未来ビジョンの検討と、まちづくり会社の検討は分けた方が良い。未来ビジョンの検討にまちづくり会社についても含まれることと思うが、まちづくり会社の検討は、経営面の観点で事業規模や原資についての検討が必要となり、非常に専門性が高い。全国的にも、組織の検討をする際に、まちづくり会社ありきでの検討が進み、複数の検討案がでてくるが、実際はやりきれていない事例も多々ある。ぼやっとまちづくり会社を検討するようなことはやめた方が良い。しっかりとした事業計画を立てることを前提として、その専門性のある人を交えて検討すべきと考える。

【委員】本日は報道の方々も来ており、発信がされることと思うため、少しでも市民に認知され、まずはスタートラインに立てっていただけるだけでも良いと思う。

【委員】次年度のスケジュール（案）に関して、下半期のエリアプラットフォームとして取り組む内容の検討や、令和8年度の上半期で実施する取組の準備とあるが、少し固い印象を持った。取組みの中には、既に動いている事業もあることや、加茂市は新潟市と違って企業がでてくるといったフェーズでもないことから、実験的にまずは動き出すことも想定される。あくまでもスケジュール（案）であるが、その際の対応等も検討いただけると良い。

【委員】スケジュール（案）を見た時に皆の意識が合っているかが懸念される。P.8の図をみると、エリアプラットフォームに参画される市民・企業・団体があり、これは企画グループを増やす際に参画していただくことと認識する。その具体的な時期は、スケジュール（案）をみると早くもR6年11月、もしくはR7年4月以降と読み取ることができるため、いつを想定するのか伺いたい。また、企画グループには呼び水みたいな存在が必要と考える。

【事務局】第1ステップの段階では、エリアプラットフォームに新たに参加していただく参加してもらう想定ではなく、エリアプラットフォームに紐づく企画グループの中に参加される方を増やしていきたいと考える。また、スケジュール(案)については、まずはたたき(案)を作成の上、本日皆様に諮る必要があると考えていた。非常にタイトなスケジュールにもなっているが、一番重要なことは、納得感をもって未来ビジョンを検討する事であると考えているため、スケジュール(案)のとおり10月までに未来ビジョンを策定するかの可否も皆様との議論の中で検討したい。

【委員】エリアプラットフォーム設立に向けて、まちづくりとして非常に良い段階であると思う。商工会議所にもまちづくり委員会があり、最終的な狙いは、エリアプラットフォームと概ね同様の内容を検討している。是非、まちづくり委員会とも連携しながら進められると良いと考える。

【事務局】商工会議所のまちづくり委員会からも本日2名参加されており、まちづくり委員会と連携を深めることは、当初から検討している。しかし、未来ビジョンの方向性が決まらない段階では、商工会議所も受け止めが難しいと考えるため、まずはビジョンの検討を進めて、ビジョン策定後に、まちづくり委員会との連携を図っていけると良いと考える。

【委員】承知した。

【事務局】本日までは、加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会であったが、今後は、加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームとして、検討を進めていく形式で良いか。

【各委員】異議なし。

【事務局】それでは、本日説明した加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム規約(案)の(案)を消して、規約とさせていただきます。規約については、再度皆様に共有する。最後皆様から一言いただきたい。

【委員】未来ビジョン(案)が出てきたことにより、わくわくすることの大事さを感じた。今後ビジョンを共有していく中で、未来を担う子どもたちのシビックプライドを高めていくことや、中学生や高校生と大人たちが未来を語っていけるようになると思う。

【委員】未来ビジョンの説明を聞いて、非常に発想が良いと感じた。今後実行に入る際に、若者にとって住み良いまちになっていくと思う。

【委員】加茂川鯉のぼりや加茂山の青海神社など、加茂には魅力的なものがたくさんある。だからこそPRが大事である。商店街や商工会議所でも、多様な取り組みをやってみよう、考えてみようという時期に来ている。それも踏まえて、今良い状態になってきていると考えるため、是非、中途半端にならないようにしていきたい。

【委員】今後未来ビジョンが策定されると、まちづくりの理念が掲げられ、戦略や取り組みも具体化していくと思う。その際に微力ながらこれまでの経験踏まえて、意見出しさせていただきたい。

【委員】広報についての議論もあったが、この取り組みを発信し、ビジネスチャンスとして認識してもらうためには、加茂がどんなまちになるかを知ってもらうとともに、加茂のブランド力も高めていく必要がある。シビックプライドに関するコメントもあったが、加茂に住む人・関わる人が口をそろえて、加茂はいいまちであると言えることが大事だと思う。この活動を通じて、そのような環境を作っていきたい。

【委員】全国のまちづくりに関わらせていただいているが、このように地元に関われることは非常にありがたい。一つ懸念としては、日頃から道の駅に関することに携わることがある中で、未来ビジョンのコンセプトにある「まちまるごとみちのえき」が報道で出てしまうと、加茂に道の駅ができると捉えられてしまうこともあると感じている。

【委員】加茂のまちなかには素晴らしい素材があるため、それを少しでも具現化できると良いと思う。

【委員】加茂に来てからもう少しで10年ぐらいが経つ。当時を思い返しながら、加茂はいいまちであると思うため、加茂にある大学関係者として、今後も協力していきたい。

【委員】加茂市の市民から「まちなかをなんとかしなくてはいけない」、「より良くしていかななくてはいけない」という声が多く集まるほど良いと思う。ただ、そのような声は現時点では少数であるため、未来ビジョンを発信しながら、そのように思ってもらえる人数を徐々に増やしていけると良い。

【委員】未来ビジョンをブラッシュアップしていくことも大事であるが、いかに取り組みを実行し、失敗を繰り返しながら取り組みをブラッシュアップしていくことが大事だと考える。

【委員】地元の方と話すことが楽しいと感じた1年だった。私の専門は都市計画（景観・都市デザイン）であるが、今回のことを通じて、都市再生やマーケティングについて話を聞いて良かった。新潟大学としても、地域連携に力をいれているため、今後も関わっていきたい。

【委員】準備協議会・ワーキングを重ねて、一定の方向性が浮かび上がってきたことで、エリアプラットフォームの設立に至ったと思う。本日の議論を受けて、今後の取組みをこれまでの焼き直しにしないことが重要であると感じた。現時点では、今後の具体の取組みは見えていないため、それを次のフェーズとして議論できると良い。官民連携で議論を行うエリアプラットフォームの場で、一緒に検討していきたい。

【藤田市長】皆様のように多様な専門の方に参加していただくことで、より良いものができると感じた。今後は、皆様から意見があったように、加茂市の方が、遠目から取組みを眺めるのではなく、自分事としてかかわっていただくことが重要と考える。次年度策定する未来ビジョンが今後加茂市を明るく照らす素材になると良いと考えるため、是非お力添えしていただきたい。

以 上